

校閲でカットされた元原稿

(スマホによる脳誤認と催眠的疼痛の類似性の秘密)

身体のどこかに不具合が生じると、その情報が神経を通して脳へ伝え続けます。たとえば、足首を捻挫して痛みがあるとその痛みが脳へ伝わります。

そこで、脳は炎症を起こして、傷ついた足首の関節を修復します。この時は、安静にすることが重要です。

1週間すれば大概の捻挫の炎症は静まります。しかし今度は長く安静にし過ぎて、痛みを起こさないようにしていると、脳はまだ治っていないという誤認を起こします。そうすると関節は修復されているのに痛みだけが消えないという事態が起こります。これは脳が現実的ではない痛みを作り出すということです。

多くの人は痛いことについて怖いのです。

痛いことと怖いことは別の話です。

この二つの感覚と感情をごちゃ混ぜにすると、痛いのか怖いのか分らなくなります。

そういう場合は、患者さんの動作をよく観察して、関節がどう動いているのかをチェックします。

本来なら痛みが出る動きをしているのに痛くなそうに動いていて、治療するときになると「痛い」と言う人は「怖い」という感情が問題です。

これはその人が、臆病とか気が弱いとかという問題ではありません。

人間が自分を守るための自然な気持ちです。

しかし、そのままにすると何ヶ月も治らなくなります。

そういう患者さんには、痛い動作を実際にやってもらうと痛くないことを実感してもらうと一瞬で痛みがなくなります。

私は受傷原因がある痛みには3種類あると思っています。

1st ペイン：受傷した時の痛み

2nd ペイン：1st ペインを補正して身体が歪んで生まれる痛み

3rd ペイン：強烈な1st ペインか長期間の2nd ペインによって、怖いという感情にすり替わった痛み

あるときに知り合いの催眠療法家の方から第5中足骨骨折（小趾の甲の剥離骨折）が2か月しても治らないと連絡がありました。

整形外科でレントゲンでも異常なしと言われても「今湿布を貼っている」と言ったので、「湿布貼らないでください」と指示しました。

湿布を貼っている限り「治っていない」という自己催眠暗示が刷り込まれてしまうからです。と説明して自己催眠から抜けてもらったら、翌日から痛くなく歩けたと昨日感謝のメールが来ていました。

催眠療法家なので、すぐにこのメカニズムを理解してくれました。

3rd ペインだったのです。

痛みのタイプを3つにわけないと問題が複雑化します。

これと同様のことがスマホから出る電磁波によって起こることがあります。

痛みを伝える感覚神経の伝達経路上でスマホの電磁波によって感覚神経の電気神経が干渉されると、本来伝えるべき痛みが伝わらなかったり、反対に痛みを訴える部分に損傷が無いにも拘らず痛みが出たりすることがあります。

特に後者は、既述した治った骨折の痛みが催眠的に起こっているケースと類似していて電磁波によって起こっている疑似的な痛み（あるいは恐怖）です。

つまり、3rd ペインが起こっている可能性です。

スマホを神経に影響を与える距離から離すと痛みが出たり、出なかったりすることがあります。